

# 移動市長室会議録（平成23年9月29日）

1 日 時：平成23年 9月29日（木）、10時～11時30分

2 場 所：生涯学習センター 1階会議室

3 出席者：

『筑紫野市青少年指導員会』

平島指導員、萩尾指導員、池田指導員、小田指導員、田坂指導員、八尋指導員、  
福満指導員、松原指導員、大石指導員、中川指導員、大串指導員、田村指導員、  
横尾指導員

『筑紫野市』

藤田市長、澤田教育部長、中村生涯学習課長、平山生涯学習課長補佐兼青少年担  
当係長、檜木秘書広報課長、砥上秘書広報課長補佐兼秘書広報係長、松隈秘書広  
報課主任

4 内容：

・筑紫野市青少年指導員の活動内容、要望などについての懇談

(事務局) 初めに藤田筑紫野市長が皆様にごあいさつをいたします。

(市長) 皆さん、おはようございます。きょうは移動市長室ということで、青少年の健全育成のために日ごろから御尽力いただいております青少年指導員の皆さんとの懇談をさせていただくことになりまして、大変うれしく思っているところでございます。

また、今日の出席者の皆さんを見ますと、市議会の議長さん、前議長さん、前々議長さんと、まるで市議会が始まってもいいぐらいのメンバーでございまして、終わったばかりの市議会をまたやらないといけないのかなと。

私は、市長就任後、市内の公共施設などを視察させていただきましたが、時間的な制約もありまして、十分な話を伺うことに至っておりません。この移動市長室は、市内で活動してある団体やグループの方々と、身近なテーマについてひざを突き合わせて話をさせていただき、その意見を市政に反映することにより、我が筑紫野市を市民にとって住みやすいまち、住んでよかったと思えるまち、子や孫に誇れるまちにしていきたいという強い思いから、実施をしているところでございます。今年8月から実施しており、今回が2回目の開催となります。

次代を担う青少年が心身ともに健やかに成長することは、私たちの願いであります。学校、家庭、地域が連携をし、大人の責任において、青少年にとってよい環境づくりに努めていかなければならないと考えているところであります。

きょうは、皆さんの思いをしっかりと聞きしながら懇談させていただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

(事務局) 続きまして、出席者の自己紹介を行いたいと思います。

まず、行政側からまいります。本日、事務局を務めさせていただいております秘書広報課長の檜木と申します。どうぞよろしく願いいたします。

(事務局) 事務局の秘書広報課課長補佐の砥上でございます。よろしくお願いいたします。

(事務局) 同じく事務局の秘書広報課の松隈と申します。よろしくお願いいたします。

(教育部長) 教育部長をさせてもらっております澤田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(生涯学習課) おはようございます。生涯学習課長の中村です。よろしくお願いいたします。

(生涯学習課) おはようございます。青少年担当の平山でございます。よろしくお願いいたします。

(事務局) 以上が行政側でございました。

続きまして、青少年指導員の方。平島会長から自己紹介をお願いいたします。

(青少年指導員) 青少年指導員は、それぞれの校区から出ております。私は吉木小学校校区から出ております平島でございます。どうぞよろしくお願い致します。

(青少年指導員) 私は原田区の田村です。どうぞよろしくお願い致します。

(青少年指導員) 私も原田地区から出ています大串です。よろしくお願い致します。

(青少年指導員) 原田小学校の校区の責任者をしていきます横尾です。平島会長のもと副会長をしております。どうぞよろしくお願い致します。

(青少年指導員) 筑紫小学校校区の大石でございます。よろしくお願い致します。

(青少年指導員) 天拝小学校校区で青少年指導員をしていきます萩尾といいます。よろしくお願い致します。

(青少年指導員) 山口小学校校区の池田でございます。ほかに山口小学校校区は私のほかに3名、合計4名です。よろしくお願い致します。

(青少年指導員) 阿志岐小校区の八尋です。よろしくお願い致します。

(青少年指導員) 筑紫小学校校区の中川です。よろしくお願い致します。

(青少年指導員) 山家小学校校区、松原でございます。よろしくお願い致します。

(青少年指導員) 同じく山家小学校校区の福満と申します。よろしくお願い致します。

(青少年指導員) 二日市北小学校校区の田坂です。よろしくお願い致します。

(青少年指導員) 同じく小田です。よろしくお願い致します。

(事務局) どうもありがとうございました。

それでは、ただいまから懇談の中身に入ってまいりたいと思います。

まず、会長のほうから、青少年指導員の現在の活動状況や、青少年育成をめぐる市の一般的な状況についてのお話をよろしくお願い致します。

(青少年指導員) 活動状況を報告させていただきます。

今、市内の青少年指導員の人数は、50名でございます。全市的な活動としては、定期的に1月おきに、それぞれの校区からの情報を持ち寄りましての情報交換会を兼ねた役員会を奇数月に生涯学習センターで行っております。私たちは、情報を共有することが優先的な重要事項と考えて、情報交換会を実施しております。

年間を通しましたら、青少年指導員の資質向上のための研修会を行なっております。今年の第1回目は生涯学習センターをお借りしまして、10月19日に講演者をお招きして講演会を行う予定でございます。それには50名の青少年指導員全員出席のつもりであります。

すが、プラスアルファでいろいろな青少年育成を行っている方に声をかけております。学校、PTA、育成市民会議、補導委員会等々。これまでの3年間の実績ですと、90名余り集まって、講習、審議会をやりました。

次に、11月は出張研修を行います。行き先は福岡学園、那珂川中学校の後野分校です。過去にも行ったことがございますけれども、やっぱりああいう特殊な学校でございますので、そのときは、なかなか授業内容を見せていただくとか、施設の隅々まで見せていただくようなことはなかったんですが、今回、いろいろ資料をいただきまして、そういう部分もじっくり研修できるということでございますので、再度そちらのほうにお邪魔することにしております。

それから、それぞれの校区で、今やっただいてるのは、筑紫小学校が毎年フットボール大会を、これは青少年指導員大石会長のもとに集まっていたいて、全校区挙げて盛大な形で長年続けてきていただいています。また、山家小学校校区では、毎年夏に子供たちにキャンプを通じて、いろいろな御指導をいただいております。

一般的に、私たちの普段の活動としては、学校区内の児童に対する朝のあいさつとか交通ルールの指導、夜間、あるいは昼間のパトロールなどを行っています。当然、地域、学校、ほかの青少年健全育成団体との連携も図りながら、それぞれに活動していただいております。

先ほど市長のごあいさつにもありましたように、青少年が心身ともに健やかに成長すること、これが私たちの願いであります。青少年が次代を担う者としての役割と責任を自覚し、他人の痛みを理解する優しさや夢と希望、豊かな心と意欲を持った人間に成長していくことを心から期待しております。私たちは、子供たちに目を注ぎ、子供たちが家庭環境において成長する権利を尊重しながら、大人の責任において、青少年にとってよい環境づくりに努めてまいり所存でございます。

学校、家庭、地域が協力し、情報共有を図りながら、子供を見守る体制づくりをし、活動内容の一層の充実、そういう形のをまとめまして、今後とも青少年の健全育成ということに取り組んでまいりたいと思います。

甚だ簡単でございますが、活動状況の報告にかえさせていただきます。

(事務局) ありがとうございます。

あと、皆様方のほうから、日ごろの活動状況について、ぜひ市長のほうに披露していただきますと助かりますけれども、天拝小学校の萩尾さん、いかがでしょうか。

私も中学校のPTAの本部役員をさせていただいたんですけども、そのときに定期的に金曜日の夜、青少年が出没しそうな盛り場あたりを青少年指導員の方と一緒に懐中電灯を持って見回りをした覚えがございます。それから、筑紫宮のときも一緒に回らせていただいたというような記憶があります。ああいったことを日ごろやっていたという事で、非常に頼もしく、私はそのとき感じました。

(青少年指導員) 私たち天拝小校区は、月の第2、第4金曜日、夜8時から補導員を中心にした夜間パトロールを行っております。第2金曜日は、中学校のPTAの中からの参加があり、多いときは50名近くになります。第4金曜日は10名前後ぐらいですが、いつでもじゃないんですけど、時には筑紫野署の少年課といますか、防犯課といますか、そこから2名か3名ほど一緒にパトロールに参加してもらっているんで、私たちも心強く思っております。

1つ、ちょっと心配になるのが、中学校からも校長先生や教頭先生が参加されるんですが、私自身が通学途上の生徒たちに学校の雰囲気や授業内容なんかについて直接聞くんですけど、生徒の言う内容と校長先生、教頭先生が言う内容とが、かけ離れた内容となっております。そのところが私自身、何かちょっと抵抗がありますけれども。以上です。

(事務局) ありがとうございます。

(青少年指導員) これから、皆さんから話が出てくると思いますがけれども、一応私のほうで青少年指導員から市長に対する要望として、ちょっと2、3お願いしたいと思っております。

1つは、現在、青少年指導員の定員は50名です。それは平成4年にスタートしました折、そのときの小学校が10校で、それぞれの学校区で5名ということで、50名。その後、天拝小学校が1校ふえて小学校数は11校になっており、55名欲しいところがございます。現在は、幾つかの校区で2人体制とか3人体制で御苦勞をお願いしている校区がございます。ですので、小学校区につき5人の青少年指導員の配置をお願いしたい。

といっても、校区ごとに5人の青少年指導員を確保するのは難しい問題でありまして、一般の市民の皆さんも青少年育成について問題意識をそれぞれお持ちなんですけれども、青少年指導員になってくれる人というのはなかなかすぐには見つかりませんので、早目早目に定員の確保はしていかなければならない部分がございます。

青少年指導員になってもらうときは、お互いの人間関係、仲間意識でなってもらっており、皆さんに御苦勞いただきながらメンバーを補充していただいているんですけど、青少年指導員を何かうまく選出できるような形が考えられないものかどうかということでござ

います。

それから、学校によって、行事などの案内や情報交換できる体制に温度差があります。校長先生の学校経営の方針から来ることもかもしれませんけれども、青少年指導員と積極的に連携を取っていただきたいと思います。そのための、市役所から学校への働きかけもぜひお願いしたいと思います。

学校へは、それぞれ町内担当の方から毎年、その校区の青少年指導員について御案内はしていただいております。

もう一つは、活動の際に使用する腕章とか帽子、ウインドブレーカー等を、市のほうで御配慮いただけたらと思っております。青少年指導員と似たような組織に、警察の委嘱であります青少年補導員があります。補導員さんは、服装もそろえて活動してあります。私たちも、予算が無いなかで少しずつ帽子など購入はしていますが、古くなったり、新しい人の分が足りなかったりしています。

皆さんから、またそれに関する事で何か御意見があると思しますので、お願いします。

(青少年指導員) 今、会長が言われたように、今から先、冬場になってくると、街頭指導に行くときに、今は個人個人のばらばらの服装で防寒着を着ていっているんですが、腕章も防寒着を着たらはめられなくなってしまいます。帽子は今のところ昔もらった、緑のものがあありますね。今の私たちが持っている帽子は夏用のメッシュですが、冬用の帽子もないし、外に出るときの制服といったものもありません。統一感のある服装にできたらいいと思います。でも、補導員さんのようにいつも出るわけでないで、ないならいい、いいかなという気持ちもありますが、やはり、統一感のある格好ができればいいですね。

(青少年指導員) 原田小学校は行政区が2つあるんですけど、はっきりしているんですよ。原田区と美しが丘南、2校区ですから。5人青少年指導員がおりますけど、原田から3名、美しが丘南から2名という形で選出しています。青少年指導員の選ばれる過程は、前任者が次の人を連れてきています。活動するのは平日が多いもんですから、結構時間が自由な人じゃないと務まらないので、選出が大変です。

区によっては、区長さんの推薦というところもあるようです。

(青少年指導員) 区長さんとの意思疎通がうまくいかない部分もある。区長さんが青少年指導員の仕事の内容を理解していなくて、区の行事と青少年指導員の仕事をまぜこぜにして、青少年指導員の事案みたいなことを言われることもあるんですよ。

その辺をどう説明すればいいのかわからないんですけど、青少年指導員はこういう立場

で活動していると言っても、なかなかそれが理解してもらえない。行政区が少ない学校区なら案外うまくいくんでしょうけど、行政区が多いところは難しい。その辺を区長会かどこかでちゃんと説明しないといけないとは思っております。

(事務局) はっきりとした選出のルールが決められていないということですね。

(青少年指導員) ないんです。だから、各小学校区ごとに本当に事情が違うものですから、活動のほうもいろいろなんですよ。

しかし、急に統一しようと思ってもどうしようもないことでしょうから、まず地域地域で話をして。研修会をするときには各小学校単位で、どんな状況か、どんな問題が発生しているのかといったことを共有することからだと思います。

(青少年指導員) ちょっと山家のほうを申しますけど、会長さんからも説明がありましたけれども、年に1度、山家小学校の高学年を中心に、1泊で夜須高原青少年の家に毎年キャンプに行って、ウオークラリーをしたり、カレーづくりをしたりとかいろいろしています。そして、山家は青少年指導員の中に元警察官の前田さんがいらっしゃるので、そっちのほうが子供の指導をやっています。

そのときに、前にキャンプに参加した子供が、中学生、高校生になって、リーダーとしてまた参加してくれるようなこともありますし、お父さん、お母さんにも来れる方は来てくださいという形で参加を呼びかけて、毎年やっております。

それから、さっきのお話にあった、第2、第4金曜日のパトロールのときに、ここ何年か前からですか、若い駐在さんが一緒に青少年指導員と回っていただいて、とても感謝しています。我々が話してもだめな、そうとうヤンチャな子でも、やっぱり駐在さんが声をかけると、効果が強いかなと思います。

それから、青少年指導員の選出の方法も話し合っていて決めています。うちは校区に8行政区あるので、それを5つに分けて、人口比で分けて、地区地区で区長推薦みたいな形にしております。ですから、2つの行政区から1人を出してもらっているところは、任期ごとに交代で出されるんですよ。ですから、せっかく青少年指導員になられても任期が来ると、もう一つの行政区から青少年指導員を出すということで、同じ人が継続しないところもあるんです。僕は任期が終わると交代になると思いますが、本音としてはまだ続けたい気持ちもありますね。

山家の場合は青少年指導員会が主催で報告会というのを区長さんたちと毎年行っています。そのときには駐在も来てもらったり、来賓みたいな形で、小学校の先生たちも来て

らう。だから、先ほど言いました夜須高原の青少年の家にも小学校の先生にも来てもらったりしており、協力関係ができていて結構うまくいっているのかなと思います。

（事務局） 山家小校区は、今年の2月に、県から青少年育成の表彰を受けられたとお聞きしていますが、そういう取り組みが評価されたのですか。

（青少年指導員） ひとつには、それもあると思います。でも、昔からボーイスカウトなどの、子供のための取り組みを続けているといった状況でございます。

（事務局） 校区の活動内容の紹介の話になっていますが、せっかくでございますので、小田さんと田坂さん、二日市北小学校の取り組みの紹介もお願いします。

（青少年指導員） 二日市北小学校は、4つの行政区、京町と曙と松ヶ浦と宮田がありますが、松ヶ浦は小さいです。京町から2名と、曙、宮田から1名ずつの計4名出ております。私は京町のほうから出たんですけども、私の前任者の方までは人づてにという感じで青少年指導員になっていただいたようなんですけども、もう当てがないからということで、区長さんを通して、だれかいないかなという感じで、私になりました。京町はだから町内、行政区のほうから選出するというような体制になっています。ほかの地域はまだそこまでいってなくて、人づてになってもらっています。田坂さんは私が「曙のほうから出てよ」という感じで、青少年指導員になってもらいました。

活動としては、二日市中学校で少年補導員の方の指導のもとに、それにお手伝いするという感じで、定期的な夜間パトロールをしております。

先日、イオンのほうに行ったんですね。そしたら、イオンの3階のフードコートの喫煙室に中学生らしき人たちがいるという場面にちょうど遭遇しました。少年補導員や警察の少年課の方に喫煙室に行ってもらって指導してもらいました。イオンの清掃の人に聞いたら、いつも居ますよと言われるんです。やっぱりイオンにも居るんだなと思って。やっぱりそういう繁華街とか、そういうところは常に気をつけたほうがいいんじゃないかと思います。夜、二日市公園などに行っても、人がいないから余り成果はないんですけども、イオンとかには子供たちが集まっています。

二日市北小校区は、毎年、新1年生が入学してきたら、4月と5月の連休ぐらまでは交通指導をしています。なんでも面倒見すぎると子供たちだけで横断歩道を渡る力が身につかないので、見守り隊ぐらいで関わっています。子供たちは最初は不安がってできなかったけど、交通指導が終わる頃にはあいさつなどもできるようになっており、顔見知りにもなれるのでよかったかなと思います。



それと、今、子供の育成の活動をしていないところがあるんですね。夏休みになっても、昔はやっていたラジオ体操とかをやらなくなったところがあるので、そういうところの子供たちを集めて、京町の児童公園で朝7時からラジオ体操をしましょうというのを呼びかけています。地域のお年よりもいらっしゃって、多いときは5、60名になったりします。お年寄りに子供たちの顔を覚えてもらえますので、ちょっと顔見知りになったりと、地域のつながりができるような活動を、何年か続けています。

(事務局) ありがとうございます。

(青少年指導員) 山口は今現在、女性1名、男性3名の合計4名の青少年指導員がおります。毎年、青少年指導員の名簿が、たぶん市のほうから学校に届いており、交通安全指導などで関わりがあるので、入学式、卒業証書授与式、運動会の案内が青少年指導員へ来ています。

私も、青少年指導員として8年目に入っておるんですが、山口小学校は今は2学級で、21、2名のクラスで2学級、そのぐらいの生徒ですから、卒業式や入学式に行きますと、生徒の顔が、ある程度わかっておりまして、子供とのつながりが深いですね。そうしましたら、卒業式に行きますと、私ら青少年指導員が出会ったときは小学校に入学したてだった子がもう中学生かという、そういう感動を与られます。長く青少年指導員を続けることは、そういう面では、いいこともあります。

それと、山口には駐在所がございまして、駐在所に青少年指導員、少年補導員、そして各行政区長、6行政区ありますので、6行政区長が案内されまして、警察署との連絡協議会等もございまして。そこでは、現在の山口地区では窃盗事件が何件ありましたよとか、交通事故が何件ありましたよとかというような情報交換をやっております。

また、青少年指導員を選任するときの苦勞やどういう選出方法なのかといったことを、行政の方にも知っていただきたいと思うんですよね。そういう面では、こういう会議は非常にいい機会だと思います。

先ほどからいろいろ意見が出ておりましたように、ほとんどが人間関係で青少年指導員になっています。私は8年も前に選任されたときには、区の役員もされておったある先輩から声がかかりました。その人は山口地区じゃなくて、二日市方面の方でしたが声をかけてくれて、そんな難しい仕事はできないと言っても、難しい仕事でもないからと言われまして、青少年指導員を引き受けました。ただ、年をだんだん重ねてきますと、年齢相応の仕事がほかにも年に1個は回ってくるんです。寺の総代とか神社の総代とか、そういうよう

な仕事が回ってきます。

そろそろ青少年指導員を別の人と替わらないといけないと思っているところなんですけど、結局、身の周りの人間関係で後任者を選ぶことになると思います。そうなりますと、どうしてもその範囲で人間が限られてくるものですから、青少年育成に関心を持って一生懸命活動していただけるような人をお願いはしますが、青少年育成に詳しいとは限りませんので、専門的な人も必要ではないかと思えます。

また、行政区に青少年指導員の選出を頼むと、各行政区から順番に青少年指導員を選出するようになって、そうなると区長や副区長、公民館長になってもらったりと、大変な御苦労がありよるわけですよ。特定の人に負担を負わせるような形になってしまう。そして、それは任期が終われば次の区の人に交代になるので、継続性のない人事になっていく。その点でもちょっと問題があるなと思えます。

また、旧筑紫郡の中で一緒に第2、第4金曜日の夜間パトロールをするとき、山口に行きますが、ほとんど人と会いません。この区域は歩きながら回ることができる距離ではないので、4人で自動車に乗って、公民館周辺や神社周辺、山の方へ行ったりして見回りしていますが、本当に人がいませんので、何をやっているかわからない気分になることがあります。

そういうふうな車で見回りをしておりますけど、青少年指導員の活動費を貰っている分はガソリン代でなくなってしまうんです。青少年指導員会の活動費は、市からの補助金として10万円、そして、青少年指導員が2,000円ずつ支払って、50名ですから10万円あります。だから、20万円で運営をしておるんですけどね。そこから、活動費を各地区に5,000円ずつちょうだいをしますが、ガソリン代でなくなるような感じです。だからといって、もっと補助してほしいと言っているのではなく、そういう実態であることを知ってほしくてお話ししました。

それと、もう一つ。今、山口小学校に山口小学校新共同教育推進委員会というのができております。学校、家庭、それから地域、この3つでたくましい山口っ子を育てようということでの推進委員会です。今月、推進総会が開かれました。委員会に、青少年指導員として団体で加入しており、そういう活動のなかで教育の場に携わっています。

(事務局) ありがとうございます。大変詳しく、わかりやすく教えていただきました。

次は、阿志岐小学校の八尋さん、せっかくの機会でございますので、よろしくお願ひいたします。

( 青少年指導員 ) 阿志岐校区は、小学校にフェスタというのがあります。年に1度、10月に阿志岐小学校フェスタというのを開催しております。4月ごろから役員会の皆さん、PTA、青少年指導員、区長さん、老人クラブ、みんな寄り集まりまして、学校と一緒に運営のことをやります。だから、地区と学校の連携というのは非常にいいんですね。運動会とか卒業式、入学式、それに単発的な行事についても案内が全部来ています。それから、今、学校はこういうふうになっております情報提供も受けています。だから学校と我々はうまい具合にいておるとは思います。

阿志岐校区の取り組みについてですが、以前は夜だけ見回りをしていたんですけど、近ごろは他地区の参考にしながら、川の中の危険なところで泳いでいないか、空き家に入ったりしていないか注意しています。危険箇所が2カ所ぐらい指定してあるので、そこを重点的に見えています。去年は危険なところで泳いでいる子がいましたが、今年はおかげさまでそういうことがなかったですね。見回りをしている時間帯は、土曜日の5時ごろといったところです。

それと、最近では病院の跡が非常に危険なところですから、そこが非常に危ないと見回っています。去年も、窓ガラスが全部割られたりしたんですけど、それは警察や大宰府市に話をして、何度か調査したんです。今年は全部窓のほうをベニヤで打ってしまっています。4月前まではガラスを割って中に侵入している人もあったんですけど、その後は、今のところそんなことはあっていません。そういう危険箇所を整備しています。

それから、今月の初めに、学校のほうからあいさつ運動をやるということで連絡が来ましたもんですから、協力しています。私が通学路に立ってあいさつすると、下級生は「おはよう」、「こんにちは」とあいさつを返して来るんですけど、上級生になるとやっぱり恥ずかしくて、なかなか大きな声が出せないようですね。

以上です。

( 事務局 ) ありがとうございます。

まだ、活動状況の説明をしていない校区があれば、ぜひともお願いします。

( 青少年指導員 ) 山家なんですけど、さっき山口の方が言われたように、第2、第4金曜日の定期巡回というのをやっているんですけど、山家も地域がものすごく広い上に、山のほうですから、苦労があります。

今の駐在所に、前々任者から若い方が来られるようになったんですよ。うちの山家校区の青少年指導員の代表をしている前田さんがもともと警察官で、県の警察学校に教えに行

かれていたか何かの関係で、3代前の若い駐在さんから一緒に活動してもらおうようになりました。

山家という地域性もあるんでしょうけど、山が多くて駅からも結構遠いんですよね。山道に自動車に来て、シンナーのような、ボンドのようなものを使って、そこにごみを捨てていたり、盗んだ自転車を乗り捨ててあるのも結構あります。見回りのときに捨ててあった自転車を見つけたので、防犯登録の登録番号を見て、駐在さんがすぐ調べて、持ち主に電話したら、「いや、うちでは自転車はとられていませんよ」と言われて、駐在さんと一緒に車で持ち主の家まで行ったんですけど、持ち主は盗まれたことに気がついていないんですよ。そのようなことが何回もありましたね。駐在さんと一緒に自転車を届けに行ったりとかですね。

それと、人選の件ですけど、山家も一応区長推薦で青少年指導員になっているんですけど、山家は1区から9区まであって、1・2区から1人、3区から1人、4・5区の中央区から1人、6・7区から1人、8・9区から1人というふうに分かれていて、区からの選出にしています。私は3区から出ていますが、今年で14年目になりますので、そろそろ新しい人に替わってもらおうと考えています。また、他の山家区では、各2地区ありますので、1任期ずつ交代で選出しています。

松原さんが説明されたキャンプとか、毎年恒例でやっていて、山家小学校の行事の1つに入れてもらっているぐらいですが、もうマンネリ化しつつあるところもあるんですよ。毎年、同じ場所なので下見に行かなくていいんじゃないかといった感じがあって、そういう雰囲気は危険だなと思います。今年で19回目になり、今まで18年間やってきて、大きい事故という事故もないし、怪我という怪我もないからいいんですけど、ちょっとほかの風を入れて、ちょっとかき回したほうがいいんじゃないかならうかと、今、自分は思っているんですけどね。

(事務局) わかりました。ありがとうございます。

(青少年指導員) 結果的には、皆さん青少年指導員の就任期間が長いもんな。

(青少年指導員) 筑紫小学校区は、区長は全然入っていないですね。

(青少年指導員) 地域によって、ばらばら。

(事務局) 選出のルールが余り決まっていないような気がいたしますけど。

(青少年指導員) それはしょうがないけど、青少年指導員をやめるときに次の人を連れてこないと、やめられんところがね。

(事務局) 皆様方の任期は、1期2年でしたよね。それがずっと長くなっていったら、大変なことになりますね。

(青少年指導員) 私は10期目です。

(事務局) まだしゃべられていない方がいらっしゃると思いますが、中川さん、筑紫小学校のことで補足とかというものがあれば、ぜひお願いいたします。

(青少年指導員) 筑紫小学校でフットベースボール大会というのを、参加者が350人を超えるぐらいの大会を毎年しているんですけど、それで先ほど会長からも言われましたように、校長先生によっても参加や運営協力への温度差がかなりあるような感じですので、できましたら前任の校長先生がきちっと引き継いでもらわないと、どうもそのあたりがうまくいかないような感じがします。

今は筑紫小学校のPTAと一応強制ということでやっているんですけど、結局、PTAの人も行事が多過ぎて、どちらかといえばちょっと敬遠ぎみなところもあった会長さんもいらっしゃいました。もう行事をやめるとかなんとか、大げんかになったこともあります。やっぱり、校長先生が協力態勢をとってくれないと、その辺はうまくいかないと思います。

(事務局) 終了時間が差し迫ってまいりましたので、そろそろまとめに入りたいと思います。

先ほど会長さんのほうから、3点ほど要望事項の提出がありましたけれども、それについて行政のほうから何か一定の回答なりがあればお願いします。

(教育部長) 青少年指導員の皆さんには、日ごろから大変御迷惑をかけておりますし、また夜間等のパトロール、非常に活動いただいていることに対しまして心からお礼申し上げます。

先ほど言われましたように、平成3年から準備をしまして、もう10期というお話がございましたけど、20年間、活動をいただいております。では、20年間で子供たちの非行がなくなったかという、これはなくなっておりませんで、やっぱり子供たちの健全育成は永遠の課題かなというふうに思っております。

ただ、この20年間の取り組みによって、いろんな子供たちが自分たちの行動とか態度とかを、意識したり気づいたりしているというのは間違いないことだろうと思っております。子供たちはどうしても、思春期の場合にはいろんな行動に走りますし、それを地域で指導してもらうことによって、気づき、大人になっていくということで思っておりますので、今後ともよろしくをお願いをしたいというふうに考えております。

先ほど会長のほうから要望が3点ございました。

1つは、小学校区5名で11小学校区あるから、5名の増員をしてほしいということでございます。これについては、市としても理解をしておりますので、来年、平成24年の3月31日までが現任期ですので、その任期交代のときに増員の方向で検討させていただきたいと思っております。

それから、学校との連携の部分が、きちっと案内している学校もあれば、理解がもう少しというところもあるということで、学校によって温度差があるとのことですので、校長会等で校長のほうに学校の協力、あるいは連携の部分を要請をしていきたいというふうに思っております。子供たちを指導する場合に、個人個人の市民の方がしている活動が点の活動であれば、皆様方の青少年指導員の団体としての活動は線の活動と思います。いろんな連携をすることによって面の活動になっていって、校区全体を覆い包んでいくというような効果ある活動になっていくと思いますので、連携につきましては区長会、あるいは校長会をお願いをしていきたいと思っております。

それから、服装の件が出されましたけど、当初、青少年指導員会を立ち上げたときから、腕章とか帽子とか、そういうものを少しずつではありますけどそろえてきておるところです。ただ、次の任期でまた増員をする、あるいは新たな方が入れかわるということがございますので、会長さんと協議をさせていただきながら、できる限り制服等の整備について前向きに検討していきたいと思っております。

以上でございますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(事務局) 最後に、皆様方から、まだ言い足りないことがあれば、ぜひともお願いいたします。

(青少年指導員) 私は天拝小校区の塔原区にいますが、区長から防犯・防災組織の立ち上げについて相談を受けています。塔原はよその行政区から比べたら、恐らく防犯・防災組織の設置がおくれておると思うんですね。どこかよその地区でも防犯・防災組織ができているところがありましたら、青少年指導員がどのような形でその地区の中にかかわっているのかを、アドバイスなどいただきたいと思いますが。

(青少年指導員) 30年ぐらい前から防犯組合がありますが、青少年指導員という立場で直接関わるということはないですね。

(青少年指導員) 市のほうから、防災の組織をなるべく早くつくってほしいと指導があるので、区長さんから相談を受けています。塔原区に昔からの住人と新しく引っ越

してきている住人となかなか繋がりがなく、今度、講習会を開く予定にはしていますが、難しいですね。

（青少年指導員） たしかに、青少年指導員として防犯・防災組織との関わり方を教えてほしい。

（教育部長） 防災組織は地域防災組織ということで、総務部の安全安心課が所管をしており、各行政区にそういう自主防災組織の結成を呼びかけをしておりますので、私のほうからでも安全安心課のほうに伝えておきたいと思います。

（青少年指導員） よろしく願います。

（事務局） 終了の時間となりました。本日は大変有意義な御報告、御意見をお伺いすることができまして、本当にありがとうございました。いろいろと御要望等もいただいておりますけども、いただいた御要望等は一旦持ち帰りをさせていただきまして、改めて回答すべきところは回答させていただきたいというふうに思っております。本当にありがとうございました。

ここで閉会に当たりまして、藤田市長がお礼の言葉を皆様方に申し上げます。

（市長） どうも長時間にわたりまして、各青少年指導員さんの各校区単位でのいろんな活動を聞かせていただきました。皆さんの大変な御労苦により青少年が守られているその状況が見えますし、また青少年指導員としての活動の大変さを市の執行部がしっかり理解して受けとめてほしいという、ご意見も承りました。

今後についてでございますが、先ほど澤田教育部長のほうからもお話が出ましたけれども、要望の件について、できる限りの努力を前向きにさせていただきたいと思います。

先ほどの萩尾さんから、防災関係について青少年指導員としてどのように関わっていくのかというお話がございました。間もなく、自然災害に備えるための地域の災害の危険性や避難箇所を掲載した防災ハザードマップが完成予定です。それに従って青少年指導員の皆様方も協力できる範囲で協力していただきたいと、このように願うところでございます。

先日、青少年のスポーツ大運動会が農業者トレーニングセンターで開催されまして、そのときの反省会での平島会長の言葉の中に、青少年の指導、あるいはスポーツを通しての青少年育成の意識が非常に薄らいできたと嘆いてありました。その理由の1つには、子供を見つめる状況が都会型に変わりつつある社会情勢であり、その中でスポーツ大会に参加したりスポーツ団体に加入する人の数が少なくなっている。北九州、福岡について見れば激減しているんだという話をされておりました。

私はそれを聞きながら、やっぱり文化的な都会型の生活をするということは望ましいことですが、青少年の健全育成に都会型を余り取り入れるということは望ましくない一面もあるのではないかと思います。心が希薄になってくる、人間関係が希薄になってくる。だから、青少年指導員をしてある方は一生懸命活動してあるけど、それに地域の住民の方たちの協力体制が整ってこない。昔の筑紫野町、あるいは1町4村の状況ではそういうことは考えられなかったことではないかなと、こんなことも平島会長の言葉の中から感じたところでした。

青少年指導員として日々活躍していただいている皆様方に、心から感謝を申し上げますと同時に、今日の移動市長室の意見を真摯に受け取らせていただいて、できる限り明るく住みよい市政と、子や孫に誇れる市づくりに一生懸命頑張ってまいりたいと思っております。

本当に今日はありがとうございました。

(事務局) これをもちまして、第2回の移動市長室を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

(全体) どうもありがとうございました。